



防コミの歩き方

ポートアイランドの地区防災計画づくり —港島地区防災対策委員会—

地区の歴史と立地特性

ポートアイランドは、1981年に街びらきをした、現在では日本最大の人工島です。36年前、島内すべてのマンションが集い「住民の生活と環境を守る」を目標に、港島自治連合協議会を発足させました。阪神・淡路大震災では、大規模な液状化、全コンテナバス破壊、三宮に通じる神戸大橋の損壊、ポートライナー橋脚の落下等で島が孤立する事態となりましたが、全国から人工島に集まり居住している住民は、何よりも親睦と交流を大切に、いち早く対策会議を立ち上げて早期の復興を果たしました。

地区の居住形態はマンションのみで、およそ7,600世帯、約15,000人が居住しています。立地特性としては、島外に通じる道路が2経路しかないこと、また、災害の懸念としては、地震、津波、高潮などがあげられます。

地区防災対策委員会の発足

地区内のマンションや消防団から、地区全体の防災訓練や地区防災計画作成等の要請があり、1年間の準備期間を経て、今年の4月に、港島自治連合協議会のもとに「港島地区防災対策委員会」を立ち上げました。

「ひょうご安全の日推進事業」の計画等策定支援専門家派遣事業を利用して、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の澤田雅裕准教授の派遣が決定しました。約10回のワークショップを開催して地区防災計画を策定します。委員会には、会の設立等に助言をあくった水上消防署の方にアドバイ

ザーとしても参加していただくことになりました。さらに、各マンションでばらつきのある防災力の格差解消を図る対策にも注力していきます。

今年度の取り組み

ワークショップでは、まず地区防災計画作成の基礎データを収集するために、住民の防災意識に関するアンケート調査を実施しました。調査内容は、阪神・淡路大震災の経験、昨年の自然災害における被害、普段の備え、自主防災組織への期待等です。すべてのマンション対象で約6,500戸に配布し、約20%の回収があり、現在、入力、分析中です。ワークショップの他に、これから暮れにかけて各マンションで防災訓練が実施されますが、できるだけ他のマンションの訓練を見学して、自分の住むマンションの防災力強化に役立ててもらおうよう参加を呼び掛けています。

(港島地区防災対策委員会
委員長 高柳章二)

